



筋骨格障害

犬の股関節形成異常症



股関節形成不全は、股関節の弛緩を特徴とする発育性整形外科疾患であり、関節への異常な負荷が生じます。変形性関節症に進行するのが典型的です。他の発育性整形外科疾患と同様に、股関節形成不全は大型犬種や超大型犬種に多くみられます。

子犬の時期には股関節の不安定性とともに、また、成犬では変形性股関節症に進行した場合に、硬直、立ち上がりやジャンプの困難、歩幅の短縮などの臨床症状を呈することがあります。しかし、臨床症状は様々であり、しばしばX線写真で見る重症度の変化と相関しないことがあります。¹

股関節形成不全は遺伝性の疾患であり、発症は過度の運動など他の要因に影響されることがあります。¹ 食事は、変形性関節症の管理だけでなく、病気の進行にも関与している可能性があります。

キーメッセージ

- リスクのある犬では、股関節形成不全やそれに続く変形性股関節症の発症率や重症度を下げするために、やせ型の体系を維持することが重要です。
 - Purina の研究では、子犬の頃からスリムな体型を維持することで、股関節や多関節の変形性関節症の発症と重症度を低減できることが明らかになりました。^{2,3}
 - 普通食群に比べ低脂肪群では、2歳の時点で股関節形成不全を発症した犬は50%少なく、認められた場合でもはるかに重症度が低いことが観察されました。²
 - 変形性股関節症を発症する年齢が、普通食の犬で中央値6歳であるのに対し、低脂肪食の犬は12歳でした。³
- また、別の研究では、肥満の変形性股関節症の犬において、減量後に跛行スコアが改善したことが示されています。⁴

(次のページに続く)

キーメッセージ (続き)

- 過剰なカロリーを避けることは、急速な成長を防ぎます。急速な成長は、発育中の骨格系に負担を与え、骨格や軟骨の異常を引き起こす可能性があります。
 - 子犬のうち、成長期の食事または「全ライフステージ対応」と表示された食事を成犬になるまで与えてください。急速な成長ではなく、安定した成長ができるようにしてあげてください。
 - 大型犬種や超大型犬種の子犬は、生後 18~24 ヶ月まで成犬に成長しない場合があります。
 - 大型犬・超大型犬用とラベル表示されたエネルギー密度の低い成長食を与える必要があります。
 - 成長速度をより遅く、より制御しても、成犬のサイズには影響がありません。
- 変形性関節症に進行した場合、目的に合わせた栄養を含む多方面からの管理アプローチが関節の損傷の進行を遅らせるだけでなく、運動能力の向上に役立ちます。

参考文献

1. Schachner, E. R., & Lopez, M. J. (2015). Diagnosis, prevention, and management of canine hip dysplasia: A review. *Veterinary Medicine: Research and Reports*, 6, 181–192. doi: 10.2147/VMRR.S53266
2. Kealy, R. D., Olsson, S. E., Monti, K. L., Lawler, D. F., Biery, D. N., Helms, R. W., Lust, G., & Smith, G. K. (1992). Effects of limited food consumption on the incidence of hip dysplasia in growing dogs. *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 201(6), 857–863.
3. Smith, G. K., Paster, E. R., Powers, M. Y., Lawler, D. F., Biery, D. N., Shofer, F. S., McKelvie, P. J., & Kealy, R. D. (2006). Lifelong diet restriction and radiographic evidence of osteoarthritis of the hip joint in dogs. *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 229(5), 690–693. doi: 10.2460/javma.229.5.690
4. Impellizzeri, J. A., Tetrick, M. A., & Muir, P. (2000). Effect of weight reduction on clinical signs of lameness in dogs with hip osteoarthritis. *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 216(7), 1089–1091. doi: 10.2460/javma.2000.216.1089

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。